

在宅高齢者福祉サービス

事業名	内容	対象者	利用料金等
食の自立支援事業 (配食サービス)	利用者に栄養バランスのとれた昼食を配達し、安否確認をする	概ね65歳以上の一人暮らしの高齢者または高齢者だけの世帯で病気等の理由で調理が困難な人	1食450円 月～土曜日 
家族介護用品 支給事業 (紙おむつ支給)	要介護状態になった高齢者等に、紙おむつなどの介護用品を低価格で支給する	介護保険認定要介護1以上の概ね65歳以上の人と、重度障害者で常時紙おむつを使用し、一人でトイレに行くことが困難な人	紙おむつ購入費の約5割補助 (要介護4・5で住民税非課税世帯で介護している人は9割補助)
緊急通報システム 利用事業	居宅に緊急通報機器(ボタンを押すだけで連絡ができる機器)を設置し、緊急時の連絡、安否確認を行う	概ね65歳以上の一人暮らしの高齢者、高齢者だけの世帯、またはこれに準ずる世帯で病気等の理由で緊急時の対応が困難な人	基本利用料1ヶ月800円 (通話料金は実費負担)
おはようサービス (乳酸飲料配布事業)	3日に1本の割合で乳酸飲料を配達し、声掛けをして安否確認を行う	概ね65歳以上の一人暮らしの高齢者または高齢者だけの世帯と一人暮らしの2級以上の視覚障害者	無料 
ホームヘルプ サービス事業	ヘルパーを派遣し、身体介護や調理・掃除などの軽易な日常生活の援助を行い、自立生活を支援する	ケガや病気等で日常生活上の支援を必要とする介護保険に該当していない概ね65歳以上の人	1時間230円 
寝具類等 洗濯乾燥消毒 サービス事業	寝具類等の衛生管理が困難な人に対して、寝具類の洗濯乾燥、消毒をする	概ね65歳以上の一人暮らしの高齢者または高齢者だけの世帯で、衛生管理が困難な人	無料 (年1回、1人2枚まで)
在宅高齢者 短期保護事業	介護している家族が病気等の理由で在宅での介護が緊急的に困難になった場合、1カ月7日間以内で特別養護老人ホーム等に保護する	概ね65歳以上で緊急的に介護や支援が必要と認められる人	利用料1日3,040円、送迎料1回370円(介護保険料第1・第2段階該当世帯は、利用料1日1,380円、送迎料無料)
高齢者生活 管理指導事業	生活指導ホームに短期間入所して、日常生活に対する適切な改善指導を行う	概ね65歳以上で、在宅で基本的な生活習慣が欠如していると認められる高齢者とその介護者	利用料1日2,250円
外出支援 サービス事業	車イス・寝たきりの外出困難な在宅者に対し、福祉車両で市内外の医療機関への送迎を行う	概ね65歳以上の人や重度心身障害者で、公共交通機関の利用や家族による送迎が困難な人(日常生活に車イスを利用、寝たきり等)	無料 (週1回まで) 
はいかい高齢者 探索事業	発信機能(GPS)を持つ端末を高齢者に携帯させ、徘徊時の探索を行う	概ね65歳以上で認知症による徘徊があると認められる在宅高齢者	加入料500円と付属品代200円(初回のみ)、基本利用料1カ月50円、情報料・人件費・機器管理費は自己負担

*一部のサービスでは、対象者や利用料を変更する場合があります。

問合せ 高齢者支援課 ☎ 0558 - 76 - 8011

市では、高齢者が自立した生活を送り、長年住み慣れた地域社会で引き続き暮らしていくことを支援するため、次の在宅福祉サービスを行っています。利用や申請の方法については、お気軽にご相談ください(サービスの利用は、市内に住民登録のある人に限ります)。

工学博士である菅野さんと葦山反射炉の出会い。は十数年前、早稲田大学鋳物研究所時代の恩師を葦山反射炉に連れてきたときに遡ります。鋳鉄の権威である恩師は、コンクリート製の24ポンドカノン砲の展示を見て、菅野さんを叱責しました。「地元の鋳物企業として、しっかりと鋳鉄製の大型砲を作るべきだ」その言葉をうけ、木村鋳造所が鋳鉄製カノン砲を製作し、平成10年に旧葦山町へ寄付しました。現在も反射炉北側に展示されている24ポンドカノン砲がそれです。

あるとき菅野さんは、専門家の間では「葦山反射炉では鋳鉄は溶けなかった」というのが通説だという話を耳にしました。金属を溶かすには、炉内の温度を高める技術が必要です。具体的には青銅の融点は800度程度ですが、鋳鉄の融点は1,150度程度であり、定説では、葦山反射炉にはその能力がなかったというのです。

「通説はすぐには変えられませんが、市民の力でいつか必ずつがえせると信じています。まずは、市民の皆さんが真実を理解してくれることがその第一歩です。葦山反射炉は、歴史的にも市民団体が守り続けてきたからこそ現存する、世界で唯一の宝物なのですから」。



「決してそんなことはない。葦山反射炉でも鋳鉄が作れたということを証明してみせる」。そこから菅野さんの、地元の工学博士としてのライフワークが始まりました。

長年にわたり、証明のための資料を集めている菅野さんによれば、反射炉建造当時の様子を記した文献『はんしやろおとりたてちゆうにつぎ反射炉御取立中日記』には、鋳鉄ができるまでの工程が詳しく記録されているそうです。また昭和62年には、葦山高校物理部の生徒が炉内の熱反射等を研究し、ふいごを使うことで鋳鉄の溶解温度を得ていたことを発表しました。そして今、菅野さん自身も、コンピュータシミュレーションで反射炉の鋳鉄製造を証明する準備を進めています。

「通説はすぐには変えられませんが、市民の力でいつか必ずつがえせると信じています。まずは、市民の皆さんが真実を理解してくれることがその第一歩です。葦山反射炉は、歴史的にも市民団体が守り続けてきたからこそ現存する、世界で唯一の宝物なのですから」。

菅野さんの地道な戦いに、私たち市民も参戦しましょう。

かんのとしたけ
菅野利猛さん(伊豆市在住)
(株)木村鋳造所 取締役開発部長
工学博士

通説をくつがえしたい

MY WAY
ワタシノアルクミチ
最終回

*『MY WAY』は今月で最終回です。今までご愛読ありがとうございました。